

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己肯定感と人権尊重の精神の育成</li> <li>○基本的生活習慣の定着と健康安全教育の推進</li> <li>○基礎基本の充実と問題解決能力の育成</li> <li>○創造的建設的な自治活動能力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 A 】 年度末【 】</li> <li>□授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】</li> <li>□言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】</li> <li>□学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 A 】 年度末【 】</li> <li>□授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 C 】 年度末【 】</li> <li>□家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 A 】 年度末【 】</li> </ul>

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 《全国学力調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語A、国語B、算数A、算数Bの全てで全国平均・県平均を上回っている。</li> <li>○国語Aでは、全ての設問で全国平均・県平均を上回っている。特に「読むこと」「書くこと」「言語」領域の正答率が高い。</li> <li>○国語A・Bともに「読むこと」「読む能力」が全国・県平均を10ポイント前後上回っており、特に短答式・記述式の問題で正答率が高い。</li> <li>○算数A・Bともに「数と計算」領域で正答率が高く、全国平均・県平均を大きく上回っている。</li> <li>○算数Aでは「数量や図形についての技能」、算数Bでは「数学的な考え方」がそれぞれ全国平均・県平均を上回っている。</li> <li>○算数A「針金の1mの重さを求める式を選ぶ」「空間の中にあるものの位置を正しく書く」で全国平均を10ポイント前後上回っている。</li> <li>○算数B「時間を求める」「折り紙の色の規則性を解釈し、条件に合う色を解釈する」で全国平均を10ポイント前後上回っている。</li> <li>●国語Aでは「話すこと・聞くこと」が全国平均・県平均と同じくらいである。</li> <li>●国語Bでは「選択式」の問題で全国平均・県平均を下回っている。</li> <li>●算数Aでは「図形」領域が県平均を上回っているものの、全国平均をわずかに下回っている。</li> <li>●算数Bでは「図形」領域で課題が見られた。また、選択式の問題で正答率が全国平均をやや下回っている。</li> <li>●図形領域で「円の長さや直径の関係」「合同な三角形の敷き詰め」の問題で全国平均を10ポイント近く下回っている。</li> </ul> <p>《県学力調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国語、算数ともに県平均・全国平均をやや下回っている。</li> <li>○国語については、学年によって全国を大きく上回っているものもある。</li> <li>○算数では波及的くり上がり、波及的くり下がり的问题に課題が見られた。</li> </ul>	<p>【学習状況調査の結果】 《全国学力調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」についての肯定的回答率が高い。</li> <li>○「家で宿題をしていますか」についての肯定的回答率が100%であった。</li> <li>○「算数の勉強は好き」「算数の勉強は大切だ」「算数の授業の内容はよくわかる」について、肯定的回答が高い。</li> <li>○「テレビやインターネットのニュースを見ますか」についての肯定的回答率が全国平均・県平均より高い。</li> <li>○「1日あたりの読書時間」では、全国平均・県平均より読書時間が多く、特に1時間以上の割合が高い。</li> <li>●「自分にはよいところがあると思いますか」についての肯定的回答率が全国平均・県平均より低い。</li> <li>●「1日当たりの家庭学習」について1時間以上と回答している割合が全国・県平均より少なく、「家で自分で計画をたてて勉強していますか」についての肯定的回答率も低い。</li> <li>●「社会や自然のことがらに、不思議だな・おもしろいなと思う」についての肯定的回答率が全国平均・県平均より低い。</li> <li>●「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」全国平均・県平均より低い。</li> <li>●「学級の友達と間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」全国平均・県平均より低い。</li> <li>●「新聞を読んでいますか」についての肯定的回答率が低い。</li> </ul> <p>《県学力調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「あいさつ」については肯定的回答率が高い。</li> <li>●「平日、1日当たりのテレビ・ビデオの視聴時間」が2時間以上の児童が半数弱いる。</li> </ul>

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年～6年の全学級で朝学習に読解ドリルを取り入れたことにより、国語科の「読むこと」の領域で「読む能力」の観点での正答率が高まった。</li> <li>○web教材やICTの活用により、「算数の授業がわかりやすい」「好きだ」など学習意欲の高まりに繋がった。</li> <li>○放課後補充学習を行い、基礎基本の徹底に繋がった。特に算数科の「数と計算」の領域で成果が見られた。</li> <li>○4年～6年の児童に週末課題の取組を続けたことで、国語・算数で「記述式」の問題での正答率が高まった。</li> <li>○特別支援の観点をいかした授業作りを研究の土台にしていることにより、どの子も教師から認められているという気持ちが高まっている。</li> <li>○「親子でチャレンジ」などPTAと連携した取り組みによって、宿題をすることについては意識が高まり徹底されている。</li> <li>○「月目標の取組」「当たり前3か条」「あいさつ運動」などによって、あいさつしようという意識が高まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○選択式問題での正答率が低い傾向にある。</li> <li>○算数の「図形」領域の活用問題に課題が見られる。</li> <li>○「不思議だな・おもしろいなと思う」「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた」「話し合う活動で考えを深めたり広げたりできる」の肯定的回答率が低い。</li> <li>○1日あたりの家庭学習の時間が1時間を下回る児童が数名いる。</li> <li>○新聞をあまり読んでいない。</li> <li>○「平日、1日当たりのテレビ・ビデオの視聴時間」が2時間以上の児童が多い。</li> </ul>

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
低学年から基礎的な学力を定着させる。 ・指導事項の系統性の確認 ・系統的な指導方法の共有	第1回12月上旬 第2回2月上旬	・課題のあった指導事項・指導方法についての職員研修を8回、授業研究を2回(低・高学年)以上実施する。 ・課題のあった指導事項について的小テストを行う。正答率90%以上。	国語・算数科において、低学年から基礎的な学力を定着させるために、指導事項の系統性・系統的な指導方法を共有するための職員研修を行う。(板書や児童のノートの交流)	・夏季校内研修で、課題のあった指導事項と指導方法について共通理解した。職員研修を2回実施。朝学習や放課後補充学習で焦点化して課題を設定した。	B			
自ら課題をもち課題解決に向けて自分の考えを持ち、友達と話し合うことで考えを深めたり広げたりすることができる。	第1回12月上旬 第2回2月上旬	・学び合いの授業づくりや指導方法についての職員研修を8回、授業研究を2回(中・高学年)以上実施する。 ・児童質問紙と同じ項目でアンケートを行い、肯定的回答率90%以上。	校内研究のテーマである学び合いの授業づくりについて、育てたい力の共通理解を図り、指導方法や授業づくりについて全教職員が共有する。	・職員研修を8回、研究授業を3回実施。月目標に「学習のめあて」を設定して、意識的に指導を行った。アンケートでは、82%の児童が肯定的回答。	A			
家庭学習の内容や方法を充実させ、学習時間を増やす。	第1回10月中旬 第2回2月上旬	・親子でチャレンジ1週間の2・3学期の取組で、1日当たりの家庭学習時間が学年目標以上の割合を90%以上にする。 ・家庭学習の内容・方法の研修を2回以上行い、家庭への啓発冊子を配布する。	親子でチャレンジ1週間の取組を中心に、家庭学習についての意識を高めるとともに、「家庭学習ハンドブック」等を使って、家庭学習の内容・方法の具体的な指導を行う。掲示物等を使って自主学習ノート等の好事例を紹介する。	・親子でチャレンジの参加率93.3%。家庭学習についての研修を2回実施した。啓発冊子を作成し、子どもたちに指導して家庭配布した。	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<ul style="list-style-type: none"> <li>○県・全国学力学習状況調査の分析を基に、教科学力の向上を目指して系統性をふまえた授業改善(指導方法)を行う。</li> <li>○「当たり前3か条」を中心に、規律ある授業づくり・落ち着いた学校生活を徹底する。</li> <li>○本校の研究テーマである「主体的・協同的な学びの力」について研修を深め、学び合いの授業スタイル・学習活動を積極的に発信する。</li> <li>○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。</li> <li>○ICTを活用した授業づくりやデジタル教科書の活用法についての好事例を交流し、お互いの指導技術の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「家庭学習のスタンダード」「家庭学習の手引き」「家庭学習ハンドブック」を使って、学級懇談や個人懇談なので呼びかけると共に、教員・生徒両面からの意識調査を行う。</li> <li>○「親子でチャレンジ1週間」の取組を活用して、親子でふれあう時間の設定やノーメディアの取り組みを家庭に呼びかける。</li> <li>○保護者と5・6年生児童を対象にしたスマートフォン利用モラルについての講演会を実施することで、情報モラルやテララーシーを高め、家庭での約束づくりの啓発を行う。</li> </ul>